

2015年8月30日
第117号
(Web版第11号)

日本犯罪社会学会ニュース

発行

日本犯罪社会学会
JAPANESE ASSOCIATION OF
SOCIOLOGICAL CRIMINOLOGY

- I 第31回日本社会病理学会大会のお知らせ
- II 東アジア法社会学会議のご報告
- III 第15回(2016年度)「日本犯罪社会学会奨励賞」自薦・他薦の募集
- IV 各部・委員会報告

※第107号からニューズレターはWebのみで発行しております。

※会員動向につきましては、年間2回、会員のみに詳細版を郵送いたします。

I 第 31 回日本社会病理学会大会のお知らせ

日本社会病理学会第 31 回大会は、2015 年 10 月 3 日（土）・4 日（日）の両日、岩手大学（大会開催委員長：麦倉哲）にて開催されます。

研究委員会では、今年度のシンポジウムのテーマを「東日本大震災：記憶と未来」と決定しました。

東日本大震災から 4 年以上の歳月が流れましたが、それが何をもたらし、どのような課題をつきつけているのか、その内容は時間とともに変容しても、対応への緊急性・必要性はむしろ増大しているともいえるのではないのでしょうか。震災発生から現在にいたるまでの経緯を踏まえ、今後の展望をいかに切り開いていくのかを探ります。

登壇者は、麦倉哲（岩手大学）・田中重好（名古屋大学）・関嘉寛（関西学院大学）・菅磨志保（関西大学）の 4 名の先生方をお願いし、大会 2 日目の午後に開催する予定です。

詳しくは、日本社会病理学会のホームページをご覧ください。

日本社会病理学会 HP (<http://socproblem.sakura.ne.jp/>)

(日本社会病理学会渉外・広報担当理事 矢島正見)

II 東アジア法社会学会議のご報告

2015 年 8 月 4 日から 6 日まで、早稲田大学早稲田キャンパスにおいて、第 4 回東アジア法社会学会議 (The 4th East Asian Law & Society Conference) が開催されました。「東アジア諸国内・諸国間の亀裂を架橋する法の役割 (The Role of Law in Bridging Chasms In and Among Asian Societies)」をテーマとする今回の大会には、日本犯罪社会学会推薦の死刑、薬物依存、司法と社会福祉に関する 3 つのセッション (Fairness and Due Process of the Death Penalty in East Asia, Japanese Drug Policy : Deeply-intertwined Promise and Peril, Correlation between Criminal Justice and Social Support Services for Offenders with Special Needs: The One-stop Service Model's Possibilities and Issues) もエントリーし活発な議論が行われました。

実行委員長を務められた宮澤節生会員から下記の通り、本学会に向けてご寄稿いただきました。

第 4 回東アジア法社会学会議は成功裡に終了しました

宮澤節生（青山学院大学；カリフォルニア大学ヘイスティングス・ロースクール）

去る 8 月 4 日～6 日に開催された東アジア法社会学会議 (4th East Asian Law & Society Conference) は、266 人が参加登録し、組織委員長を務めた私が言うのは自画自賛になりますが、客観的に見ても成功裡に終わったとご報告できると思います。これは、参加したアメリカ法社会学会 (Law & Society Association, LSA) の現・前・元会長をはじめとして、多くの外国人参加者が指摘していたことで、報告の水準や参加者の部会出席率が、過去 3 回の大会に比べてはるかに高かったという評価を得ています。（部会出席率が高いのは、あまりの暑さで外出できなかったためだろうというジョークもありましたが。）

内容上の特色としては、8月3日に実施した府中刑務所訪問を含めて、刑事法分野の部会が多かったことをあげることができます。この点については、犯罪社会学会が協力学会として部会を組織し、会員に参加を働きかけてくださったことが大きく貢献していたと思います。そのため、最終日の最後の時間帯には、犯罪社会学会企画の死刑関係部会、周防正行監督のインタビュー、裁判員制度関係部会の3本がかち合うという残念な状況も発生しました。

しかし、参加した現LSA会長のValerie Hansが陪審制度研究者であり、元LSA会長のMalcolm M. Feeleyが刑事司法全般の研究者であることからわかるように、諸外国の法社会学では刑事法分野が大きな比重を占めています。したがって、2016年9月に、新設のアジア法社会学会(Asian Law & Society Association、ALSA)の第1回年次大会としてシンガポールで開催される次回大会にも、日本犯罪社会学会会員が多数参加することを期待しています。次回大会の情報はALSAウェブサイト<http://alsa.sakura.ne.jp/>に掲載されますので、ご注意ください。

Ⅲ 第15回(2016年度)「日本犯罪社会学会奨励賞」自薦・他薦の募集

日本犯罪社会学会では、犯罪、非行、刑事司法、及び、それらに関連する諸事象に関する社会科学的研究の活性化と発展のため、そして、知的資産の不断の蓄積および学術内容の更なる質的向上のため(特に若手研究者への刺激と登龍門として)、「日本犯罪社会学会奨励賞」を創設し、受賞研究業績を選考し表彰しております。

2016年度は、著書が選考対象となる年です。2014年4月から2016年3月までに公表された、原則として満40歳以下の会員(受賞時点で会員であること)による著書の自薦・他薦を募集いたします。ノミネートの期限は2016年3月31日(消印有効)です。詳細は学会ホームページの「奨励賞規約」をご覧ください。

自薦・他薦いただく際には、以下の情報を記した書面とともに、選考対象著書を5部、学会事務局宛ご送付いただくようお願いいたします。封筒に「奨励賞応募論文在中」とご明記ください。なお、応募された著書5部は返却いたしません。

- 1) 選考対象の著者名(フリガナ)、連絡先住所、電話番号、メールアドレス
- 2) 選考対象者の生年月日
- 3) 選考対象論文名、掲載誌名、出版年月日
- 4) 他薦の際には、推薦者の連絡先住所、電話番号、メールアドレス

日本犯罪社会学会 事務局

〒577-0036 東大阪市御厨栄町3-1-35 学術センター U-Box 2F

Ⅳ 各部・委員会報告

1 研究委員会

第42回大会のプログラムを9月中旬に皆様のお手元にお届けする予定です。大会への皆様のご参加を心よりお待ちしております。

なお、本大会より報告要旨集に掲載する原稿の作成および提出方法が大幅に変更されます。詳細は追ってメールと書面(郵送)でお知らせいたしますので、大会での報告者など該当される方はご確認ください。

2 編集委員会

『犯罪社会学研究』41号の自由論文・研究ノートの投稿締切りは2016年5月31日です。HPおよび最新の既刊号所載の投稿規程に従って、下記住所宛にご送付ください。なお、投稿は常時受け付けております。会員の皆様のご投稿をお待ちしております。
本誌が犯罪社会学の自由な学術フォーラムとなることを期待しています。

<自由論文・研究ノートの投稿先>

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-10 八ッ橋ビル7階 現代人文社気付
日本犯罪社会学会編集委員会

学会誌編集業務に関するご意見・ご質問につきましては、下記までお寄せください。

<編集委員会事務局>

hanshahenshu15@gmail.com

3 渉外広報委員会

渉外広報委員会では、犯罪社会学に関する研究会に対し、助成を行っております。年度ごとに2件、1件あたりの助成金は40,000円です。本助成を申請する際には、事前に申請責任者の名前と住所ならびに所属、研究会の名称、助成を申請する研究会の開催日時・開催場所・内容（テーマ、タイトル等）を、渉外広報委員会までご連絡ください。連絡先は下記のとおりです。受付後、速やかに審査手続きを行い、採否のご連絡をいたします。なお、研究会開催後の申請は受け付けておりません。採用が決定した際には、渉外広報委員会より助成金の振り込みを行います。後日、申請責任者には、領収書の提出等の事務手続きを担当していただきます。

今年度はまだ1件も申請がありません。 相応しい企画がございましたら、是非積極的にご応募くださいませ。

連絡先：本庄 武 (t.honjo@r.hit-u.ac.jp)

日本犯罪社会学会事務局 (hansha@daishodai.ac.jp)

4 本部事務局会計部

会費納入のお願い

まだ2015年度の会費をお支払い頂いていない方は、郵便振込にて会費を納入されるようお願い申し上げます。金額、口座番号および口座名は下記の通りです。

また、領収書をご希望の方は払込票の通信欄にその旨を記入して下さい。

通常会員 7,000円

但し、院生会員 6,000円（大学院に在籍し、かつ常勤の職を有しない会員）

国外会員 7,000円（国外に在住し、かつ国内に連絡先を有しない会員）

郵便振替口座 00950-2-148284

加入者名 日本犯罪社会学会

会費を3年未納となりますと年度末で退会扱いとなります。滞納されていて会員の資格についてご確認なされたい方、また退会をお考えの方は、その旨を事務局まで御一報下さい。

なお、銀行振込や小切手での会費の支払いは受け付けておりませんのでご注意下さい。

5 本部事務局庶務部

(1) 献本 (2015年4月16日～2015年7月25日現在)

下記の通り献本がありました。ご報告旁々、お礼申し上げます。

- ・『発達障害支援の社会学-医療化と実践家の解釈-』東信堂、木村祐子著
- ・『高瀬真卿日記 四』淑徳大学アーカイブズ、長沼友兄著
- ・龍谷大学矯正保護・総合センター「キャンベル共同計画 介入・政策評価系統的レビュー」第9号
- ・警察政策研究センター「警察政策研究」第18号
- ・龍谷大学矯正・保護課程委員会「矯正講座」第34号
- ・東京国際大学「応用社会学研究」第25号

以上6冊

(2) 会員数 (2015年7月25日現在)

一般会員453名、名誉会員11名、終身会員1名、特別会員2団体、合計467名

※個人情報保護のため、ニューズレターの記載は人数のみとします。会員各位には、年間2回、会員動向の詳細版を郵送いたします。

お願い

転勤等で所属や連絡先を変更された場合は、学会事務局まで速やかにご連絡下さい。

事務局では、会員の皆様からのご意見、ご要望、インフォメーションなど随時承っております。

日本犯罪社会学会 事務局
〒577-0036 東大阪市御厨栄町3-1-35 学術センター U-Box 2F
TEL : 06-6618-4324 (月～金 10:00-16:00)
FAX : 06-6781-8883
E-mail : hansha@daishodai.ac.jp

*お問い合わせ・ご連絡は、なるべくメールでお願いいたします。
